

五島市奥浦地区

9

おくうら夢の まちづくり協議会

人口 932人

世帯数 567世帯

設立 平成25年11月

(令和3年10月末現在)

地域の現状と課題

奥浦地区は、福江島の北東部にあり、明治の町村制施行時の旧奥浦村に相当します。西側は笹岳、平山が連なり、深い緑の山々に囲まれ、東側は海岸線が長くコバルトブルーの海岸などバラエティに富んだ眺望が楽しめる地域です。明治12年、五島で最初の仮聖堂として建築(木造)され、明治41年、レンガ造りとして建て替えられた堂崎教会を始め、浦頭教会などの教会が点在し、キリスト教信者が多いことも特徴です。

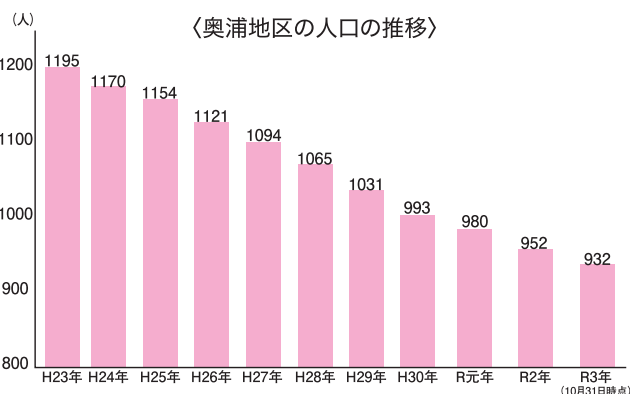
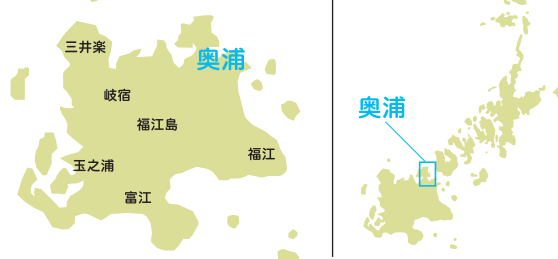
五島近海で獲れたクロマグロの養殖場や、つばき油の製油所があり、奥浦港から二次離島の久賀島を往復するフェリーが出ています。

地区内には14の集落がありますが、人口減少が著しく進んでいます。昭和25年には4375人がいましたが、令和3年10月末時点で932人に減っています。人口全体に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は令和3年10月末時点で49.6%に上り、平均年齢も59歳と高くなっています。地区内に生活必需品を購入できる店がないことに加え、バス路線のない地域があり、車を運転できない高齢者は、通院や買い物に不便を感じています。

集落の維持、高齢者の利便性向上が課題となる中、五島市の「地域の絆再生事業」のモデル地域の指定を受け、「幸福度日本一! 世界に輝く

おくうら」を掲げ、町内会連合会などでつくる「おくうら夢のまちづくり協議会」が平成25年11月に発足しました。

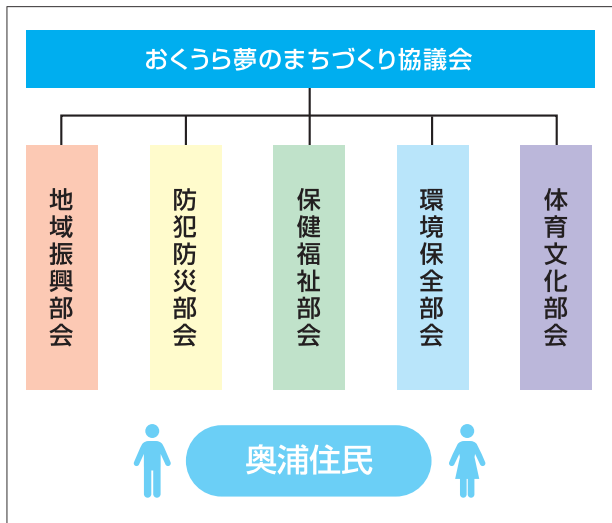
〈拡大図〉



五島列島で最初に建てられた堂崎教会=令和3年11月、五島市内



深く入り組んだ奥浦湾=令和2年6月、五島市内



協議会の組織図

奥浦の目標 『幸福度日本一! 世界に輝く♡ おくら』を目指す!

- 1 交流人口を増やし定住人口増につなげる!
 - ・体験型観光を充実させ交流の機会増
 - ・民泊から短期滞在、そして定住へ
- 2 住民が共に支え合う地区へ!
 - ・見守りサービスや日常生活のお手伝い
 - ・みんなで支え合う暮らしの実現
- 3 安心して暮らせるまちに
 - ・地域住民で防犯・防災体制の整備
 - ・地域リーダー人材育成

協議会が掲げる奥浦地区の目標

現在の主な活動内容

〈運営上の課題と克服手法〉

協議会の会員は約100人に上り、奥浦地区の人口の1割強に相当します。組織内は地域振興、防犯防災、保健福祉、環境保全、体育文化の5部会に分かれ、それぞれ事業を展開しています。体育文化部会は、毎年秋に奥浦小学校グラウンドでナイターペタンク大会を開催しており、市内全域から多くの方が参加しています。地域振興部会と環境保全部会は、道路脇に四季折々の花木を植える取組を、県五島振興局か

ら受託し収益事業として実施しています。このほか奥浦の歴史を探訪する「奥浦さるく」(体育文化部会)など幅広く活動を繰り広げています。

設立当初は、全体的な活動やビジョンが見えづらいことが課題でした。このため羅針盤となる「奥浦地区まちづくり基本構想」を平成27年に策定。現在は約2カ月おきの役員会と各部会で課題を共有し、解決策の検討に取り組んでいます。継続的に活動に関わっていただくため、役員を離れた人にも会員として残ってもらっています。移住者も積極的に招き入れ、集落支援員1人も協議会運営に携わっています。

〈移動支援の取組〉

多彩な事業の中でも、高齢者の利便性向上に直接的につながっているのが移動支援です。奥浦地区には生活必需品を購入できる店はなく、車を運転できない高齢者が買い物に苦労しているため、平成27年から試験的に支援に乗り出しました。

当初は週1回、協議会の委託を受けた高齢者施設が、商品購入を希望する方々からの注文票を取りまとめ、市内のスーパーへ発注、受取後、ボランティアスタッフが注文者に配達していました。平成28年4月から本格運用し、利用登録料を月500円としました。

ところが「商品をじかに見たい」「友だちと買い物に行きたい」といった要望が相次いだた



利用者に好評でニーズが高まっている買い物支援=令和3年12月、五島市内



パンジーなどの花の苗を歩道脇に植える取組=令和3年11月、五島市内

め、平成29年4月からはサービスを発展させる形に変更しました。協議会が国の過疎地域等集落ネットワーク圏交付金を活用して購入した8人乗り車両を使い、毎月第1火曜・水曜、第3火曜・水曜に「買物支援送迎バス」を運行しています。バスは、奥浦地区全14の集落から市内の商業施設までを往復しており、利用者は、このバスを使って買い物に行くことができます。1回の利用については、協賛金500円となっています。

ドライバーは協議会の保健福祉部会員や民生委員らが当番で行い、高齢者に付き添う「買物支援員」もいます。利用者からは「みんなと買い物に行けるのが楽しみ」など好評の声が続出しており、令和元年度の利用者は556人に上り、利用者は年々増えています。



教会を彩るイルミネーション＝令和3年11月、五島市内

POINT

- ・平成27年から高齢者の買い物支援を実施
- ・宅配サービスから、送迎バスに発展
- ・令和元年度の利用者は556人で増加傾向
- ・買物支援員の配置

INTERVIEW

会員の頑張り素晴らしく

平成29年4月から集落支援員を務めています。交付金の会計業務、部会の調整や資料作成、イベント準備など仕事は多岐にわたり、そばの収穫といった作業にも参加しています。

集落支援員になった当初、自分がメインで動かなければと思っていたのですが、会員の方々が自主的に活動や課題解決に向けた協議を進めてくれるので、気付けば後から付いていくことが多いです。地



奥浦地区担当の集落支援員
小嶋 久実子さん

域を元気にするための会員の方々の頑張りは素晴らしく、むしろ奥浦出身ではない私が手取り足取り教わって、育成されています。

さらなる協議会活動の周知にも注力しており、取材や情報収集、撮影、編集も担当して毎月1回、協議会の広報誌を発行しています。これは大変ですが、活動を知らなかった方に伝える意義があり、入会する人が少しでも増えればと願いながら頑張っています。

行政からの支援

協議会は、五島市から「地域の絆再生事業」の交付金の交付を受けており、単年度当たりの交付額はおおむね300万円台です。高齢者の買い物支援事業や、大豆・そばを栽培して特産品の開発を進める事業のほか、各町内会が設置し管理している街路灯の電気料金助成など、用途は多岐にわたります。令和3年度の交付額(予算額)は361万円となっています。



栽培したそばを調理する際に使う「そば打ちセット」。行政からの支援で購入した
＝令和2年

今後の課題・展望

協議会は強い結束のもと多様な事業を推進し、高齢者の利便性向上や地域活性化に貢献してきました。ただ、事業運営の維持、次世代への継承という点に課題も抱えています。

現在、5部会では40代がリーダーシップを発揮していますが、今後どう引き継ぐかは不安の種です。このため49歳以下を集めた座談会を開くなど、「活動の継承」を見据えた努力もしています。

多岐にわたる事業の維持も課題で、買い物支援は好評で需要は高まっていますが、ドライバーなどの人材をどう確保し続けるかが懸念材料です。

協議会が昨年、奥浦の中学生以上にアンケートを行ったところ、「今後もこの地域に住み続けたい?」という問いに6割近くが「住み続けたい」と答えました。今後も住民の声を吸い上げつつ、事業計画の練り直しを進める方針です。



奥浦の活性化に向けて住民が活発に意見を交わした座談会—令和3年7月、五島市内

INTERVIEW

移住者受け入れる環境あり

奥浦地区は、近所と昔ながらの仲の良い付き合いがあり、移住者も受け入れる地域です。かつて長崎本土から移住してきたカトリック信者が住み着き、仏教徒とカトリック信者が共存してきた地域の歴史からも、懐の深さがあります。

おくら夢のまちづくり協議会は以前に地区にあったスポーツクラブのメンバーを基に構成しているのが特徴です。従来からの人間関係もある中で組織運営しており、4



おくら夢のまちづくり協議会
会長
浦 勝彦さん

0代を中心に頑張ってくれています。ただ、数少ない20~30代が40代になるころに協議会の活動ができるかが心配で、若い人材の確保は課題です。

協議会は「幸福度日本一!世界に輝く おくら」を掲げ、奥浦に住んで良かったと思えるまちづくりを進めています。今後は、高齢者のために草取りや電球の取り換え、墓掃除などの軽作業を請け負えないか検討したいと思います。

まとめ

- ① 平成27年から高齢者の買い物支援を実施
- ② 地元の福祉団体とも連携
- ③ 宅配サービスから、送迎バスに発展
- ④ 令和元年度の利用者は556人で増加傾向
- ⑤ 買い物支援員の配置
- ⑥ 交付金以外の収入を確保
- ⑦ 集落支援員制度を活用

取材を経て

奥浦地区103人(令和3年12月時点)の会員がいて、住民の参加率の高さに驚きました。かつてのスポーツクラブのつながりを軸に、既存の人と人との信頼関係を重んじたチームビルディングが奏功しています。

また、道路脇に花木を植える活動は収益事

業で、「交付金以外の収入の確保」の面でも好例です。一方で、事業が多いという側面もあるため、住民アンケートの結果などを参考に事業の「選択と集中」を進める必要性はありそうです。

若い世代が参画し、その積み重ねによって次代を担うリーダーが育つ好循環が生まれてほしいと思います。